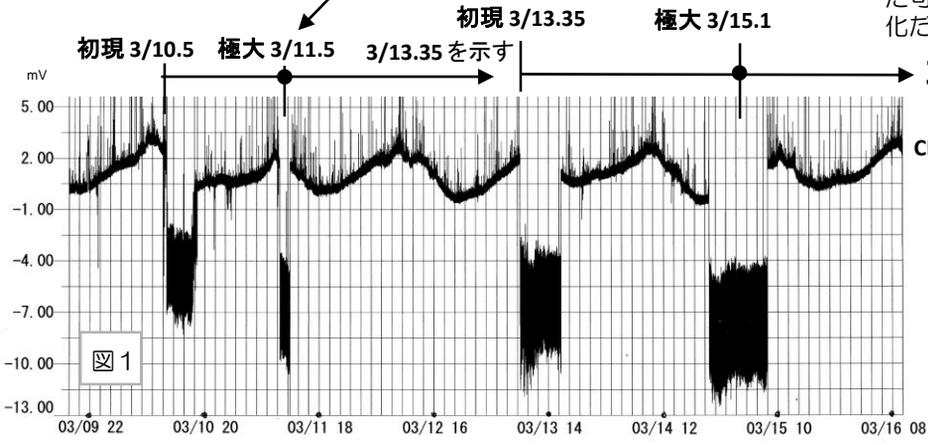


※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は30年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024.1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましては、2023.12/31の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±0.3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。皆様の本観測研究に対するご支援（情報配信参加）を賜りたくお願い申し上げます。

No1778 長期継続前兆 CH26・CH32 変動静穏化 通常基線維持
変動値の大きな CH26特異変動の変化からは 3/18±2 発生の可能性が示される

Stage-30他が 3/7±2を示す → **3/6.0 CH17極大** CH17・CH26が 3/11±2を示す 全て T_{fap}:T_{map}=20:13 経験則使用
→ **3/6.3 CH26極大**

※ハケ岳のCH32は、CH26のTaa変動期間に弱い変動が出現していた可能性が高い見解。CH26の変化だけで見直しました。

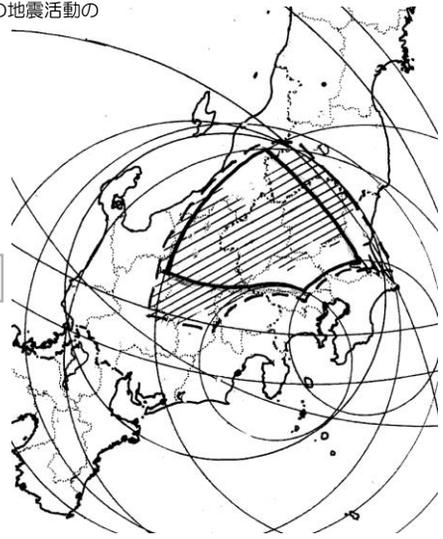


◆お伝えしてきました変動の関係は細かく見過ぎていた様です。上記のとおり、CH32の弱い変動ではなく、顕著な大きな変動値のCH26の特異変動だけに注目しますと、単純に左図1の様な関係が考えやすい。
◆認識しなおいした当該理解が正しい場合は、3/18午前中を中心とした時期が示されます

◆まだCH26のTaa（変動期間中）ではありますが、17年8ヶ月もの間、継続した全ての前兆変動は静穏化し静穏です。推定される3/18±2に再び変動の初現または極大が出現して発生がさらに先になる可能性は完全否定困難ですが、現状CH26のみであったことから、3/18±2 発生の可能性は十分考えられます。仮に3/20までに対応地震が発生せず、変動が出現した場合には続報で報告させていただきます。

◆以前の情報で最近噴火型前兆は観測されていないため、地震発生に伴う噴火の可能性は考えにくいと記しましたが、2018年1月23日の草津白根山鏡池付近での小規模噴火は、2017年12月12日が極大で、ハケ岳だけに噴火型前兆変動が複数日観測され、極大～噴火までの日数が34日でした。今回は2月6日極大でハケ岳のCH26に噴火型（複数日）が観測されています。仮に数日以内に発生となる場合には極大からの日数が近くなりますので、草津白根山付近での地震の場合には、噴火の可能性も否定できないことを記しておきます。

火山近傍領域での地震活動の可能性が高い



●推定領域：図2の点線領域内＝大枠推定領域
図2の太線領域内＝可能性が考えやすい
図2の斜線領域＝火山近傍で考えやすい

●推定規模：M8.0±0.3
M7.7～8.0の可能性考えやすい
または複合地震
複合の場合はM7以上地震の断層長Lkmが
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.)式で110～150km
程度となる様な複合地震活動の可能性
(例：M7.1±0.3+M7.3±0.3等)

●推定時期：2026年 3月18日±2
3/18の可能性考えやすい。3/20までに発生なく、変動出現の場合はしばらく変動を観測し続報修正予定

○推定地震種：震源浅い日本列島陸域地殻地震
○推定発生時刻：午前9時±2 or 午後6時±3
(複合地震の場合は当てはまらない)